

No.	頁	市民の意見	市の回答
1	18	<p>ゲートキーパーの養成について</p> <p>本市の特徴としては、20代以上の働く世代の自死が多いとあるが、現在のゲートキーパー養成の方法である「各地区の公民館で行われる健康講座等の様々な機会を捉えて講話を実施し」で必要な方へ必要な支援が届くような体制ができるのか。企業や、大学・専門学校などへの啓発の強化やゲートキーパー養成研修の実施等を検討したり、働く世代の方々を対象とした企画等を公民館で実施することや、公民館以外の場所を活用した啓発・研修の機会が必要だと考える。</p> <p>また、他県では、中学生等を対象にしたゲートキーパー養成研修等を行っているところもあると聞くため、学校での人権学習やいのちの授業等の中で、他者の変化に気づくこと・自分の困り感に気づき、言語化し、誰にどのように伝えればよいかなど、他者理解だけではなく自身の理解にもつながり、自死予防へ様々な方面からアプローチできるという取り組みもあるので、そのあたりを参考にされるとどうか。</p>	<p>・自死対策では、悩んでいる人に寄り添い、関わりを通して「孤独・孤立」を防ぎ、支援することが重要であるため、幅広い世代の方にゲートキーパーについて知っていただく必要があります。それぞれの生活様式、活動状況等に合わせた啓発を実施するため、地区活動に参加される方はその活動の中で、働く世代は地区活動に参加することは難しいですが、インターネット等を活用してご自身で情報収集をすることができるので市のホームページやSNSを活用して情報提供を行っていきます。その中で、働く世代向けの情報提供サイトの紹介や、鳥取県の実施する企業向けのゲートキーパー養成研修の情報提供を合わせて行い、さらに、労働者の相談を受ける機関と連携した周知啓発に努めます。</p> <p>・本市においても、子どもたちが自尊感情を育み、自分と他者の命を最大限に尊重する心を育て、多様性を認め合える関係が築けるように「米子市人権教育推進プラン」に基づいた人権教育を推進しています。また、困ったときはひとりで抱え込まず、誰かに相談できるように信頼できる相談先やメンタルヘルスについての情報提供にも取り組んでいきます。</p>